

後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）の発生動向【沖縄県：2013年～2022年】

2023年5月23日現在（2022年の数値は暫定値）

感染症発生動向調査において、2013年～2022年^{*}に診断され届け出られた後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）の情報を還元します。

^{*}疫学週によります。具体的な各年の集計対象期間は下表のとおりで、診断日を基に集計しました。

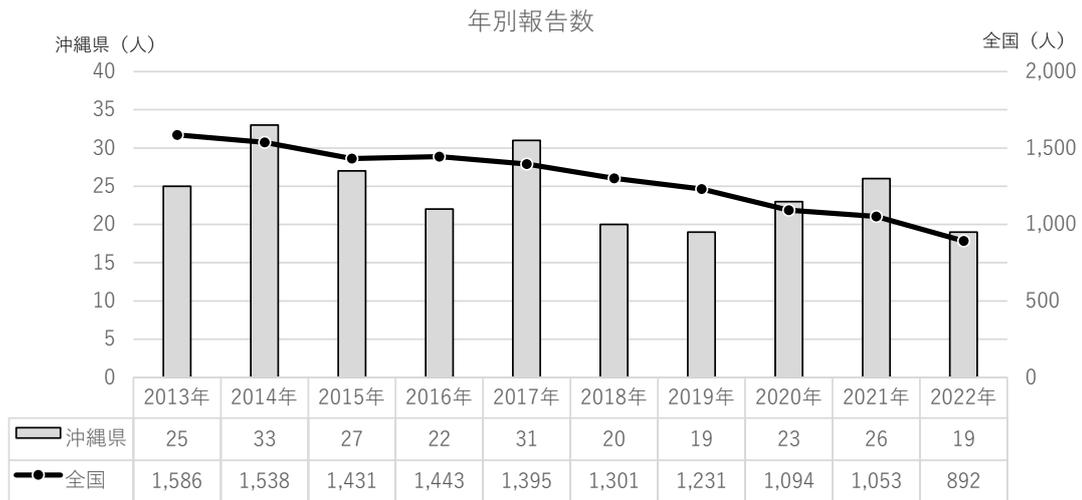
所属年	集計対象期間	
2013年	2012年12月31日	～ 2013年12月29日
2014年	2013年12月30日	～ 2014年12月28日
*2015年	2014年12月29日	～ 2016年1月3日
2016年	2016年1月4日	～ 2017年1月1日
2017年	2017年1月2日	～ 2017年12月31日
2018年	2018年1月1日	～ 2018年12月30日
2019年	2018年12月31日	～ 2019年12月29日
*2020年	2019年12月30日	～ 2021年1月3日
2021年	2021年1月4日	～ 2022年1月2日
2022年	2022年1月3日	～ 2023年1月1日

*2015年および2020年は53週間、その他の年は52週間となっています。

(1) 報告数の推移（沖縄県・全国）

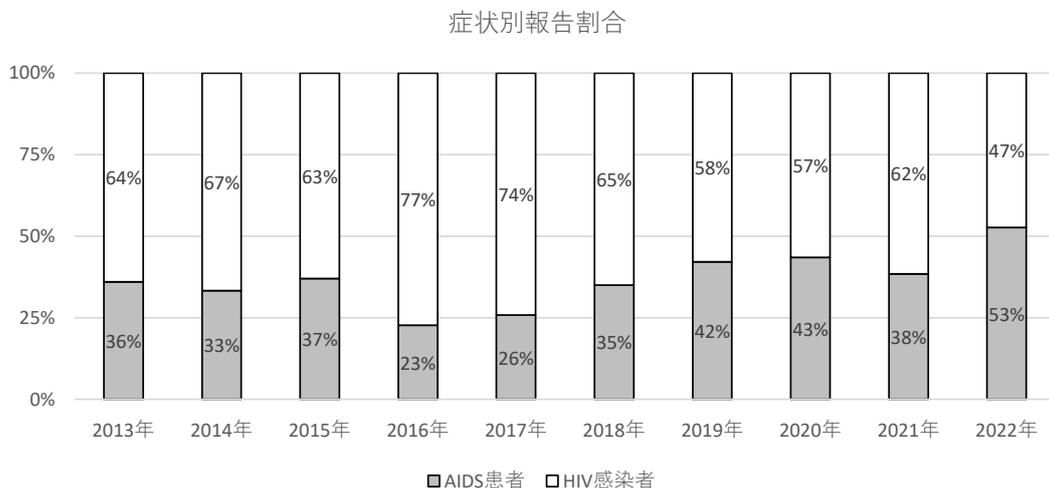
沖縄県における2022年の報告数は19人で、2013年以降最少でした（2019年と同数）。

全国における2022年の報告数は892人で、2013年以降最少でした。



(2) 症状別報告割合（沖縄県）

2022年のAIDS患者の割合は53%で、2013年から2022年の間で最も高割合でした。



(3) 性別報告数の推移（沖縄県）

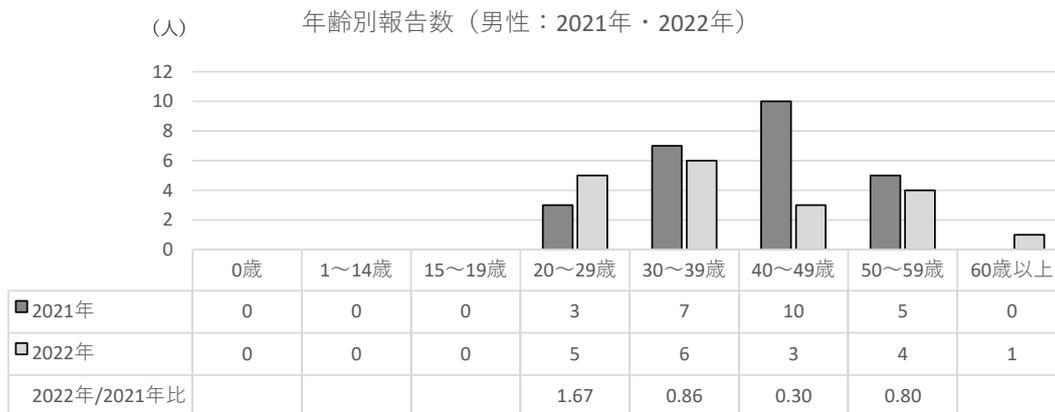
2022年の男性の報告数は19人で、前年比0.76でした。
2022年の女性の報告数は0人でした（前年1人）。



(4) 性別・年代別報告数（沖縄県：2021年・2022年）

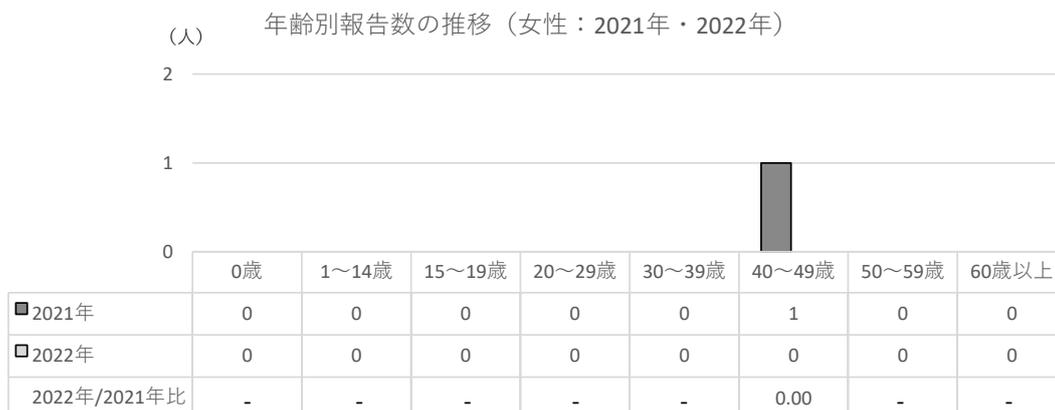
① 男性・年代別報告数

2021年と同様に、2022年も20代から50代の報告が多くありました。
2022年/2021年比で見ると、20～29歳、30～39歳、50～59歳で男性全体の2022年/2021年比(0.76) 以上でした。



② 女性・年代別報告数

2022年は女性の報告はありませんでした。



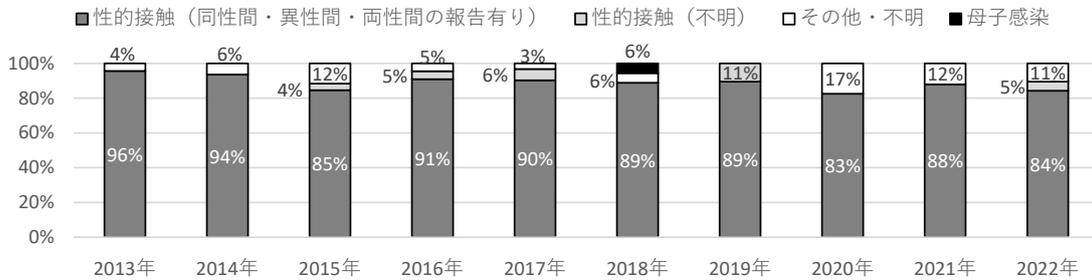
(5) 性別・感染経路別報告割合（沖縄県）

①男性・感染経路別報告割合

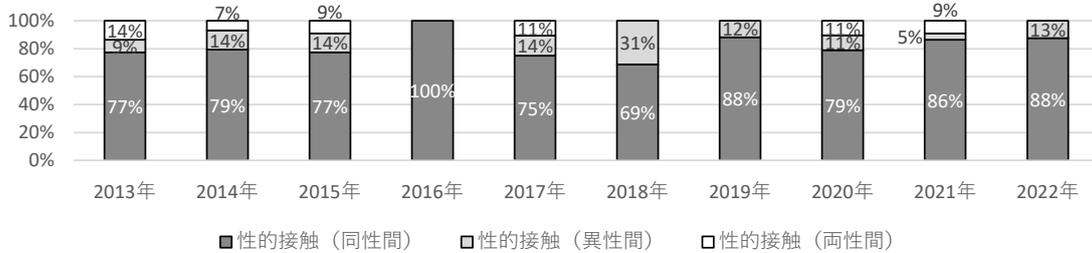
性的接触が多く、83%~96%で推移しています。

性的接触（同性間・異性間・両性間の報告有り）における同性間・異性間・両性間割合は同性間が多く、69%~100%で推移しています。

感染経路別報告割合の推移（男性）



性的接触（同性間・異性間・両性間の報告有り）における同性間・異性間・両性間の割合の推移（男性）

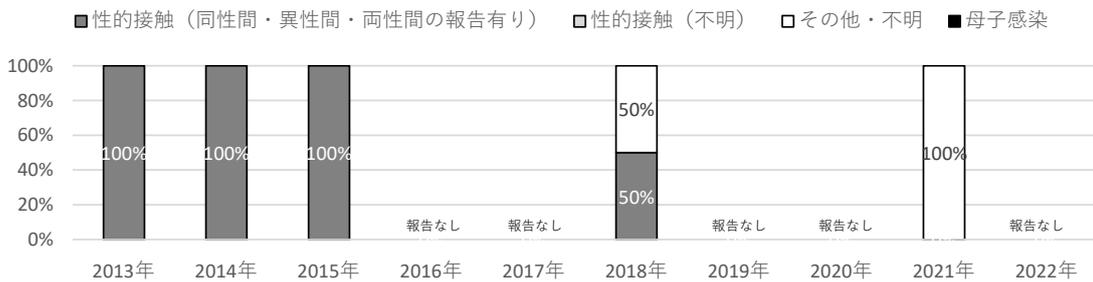


②女性・感染経路別報告割合

2013年から2022年の女性の報告数は8人で、うち、性的接触は6人でした。

性的接触（同性間・異性間・両性間の報告有り）における同性間・異性間・両性間割合は対象報告のなかった年を除き、異性間の割合が100%となっています。

感染経路別報告割合の推移（女性）



性的接触（同性間・異性間・両性間の報告有り）における同性間・異性間・両性間の割合の推移（女性）



(6) 患者国籍別報告数（沖縄県）

日本国籍が多く、84%~100%で推移しています。

